

発行  
北海道ポーランド文化協会  
〒001-0032  
札幌市北区北32条  
西5丁目2-32-902  
佐光方  
電話・FAX  
011-790-8610

# POLE

第75号 2012.6.8  
北海道ポーランド文化協会会誌

北海道ポーランド  
文化協会  
創立25周年!

Happy 25<sup>th</sup> Anniversary!



第62回例会  
**午後のポエジア**  
6月16日(土)  
開場 13:30 開演 14:00  
北大クラーク会館3F  
国際文化交流活動室



第57回例会の写真提供  
運営委員・尾形芳秀

ポーランド作品 ◆朗読 & 音楽♪ 詳細は同封のフライヤーをごらんください!



副会長  
霜田千代麿

北海道ポーランド文化協会は本年度25周年を迎えた。スゴイ事である。現在、東日本で活動している唯一の“ポーランド協会”である。

特に近年は在京のポーランド大使館の大使をはじめ人的交流が活発になっている事は誠に喜ばしいかぎりである。在札のポーランド人の学生や勤め人、子供達を交えての交流は総会と今回の「午後のポエジア」の2つである。

ポーランド人の御婦人達の手造りの菓子や料理も懇親会でふるまわれる。今年も是非ご参加くださいませお願い申し上げます。

## <第I部> 14:00~

- ◆ 斎田 道子 「ポーランドの子どもうた」
- ◆ ラファウ・ジェプカ 「Na straganie」
- ♪ ダニエル・ガイエフスキ 「Tolerancja」
- ◆ 小林 暁子 「母と娘の手紙」から
- ◆ マズル・ミハウ 「Stepy Akermanskie」他
- ◆ 氏間 多伊子 「チェスワフ・ミウオシュ詩集」から
- ◆ 長屋 のり子 自作詩

## <第II部> 15:30~

- ◆ ウカシュ・ザブウォニスキ 「Lokomotywa」他
- ◆ オレヤージュ・シルヴィア 「Wczesna godzina」他
- ♪ シルバスター・マルタ 「Ocalić od zapomnienia」
- ◆ 霜田 千代麿 新作「鎮魂」の台本朗読  
<横笛演奏> 福原 光篠

## <懇親会> 17:00~

- ♪ ヨアンナ・クンツェヴィッチ
- 富山 信夫 (◆朗読 ♪音楽 ■その他)

主催/ 北海道ポーランド文化協会 後援/ 駐日ポーランド共和国大使館・札幌市・札幌市教育委員会  
交通/ 北海道大学クラーク会館へは北区北8西8 地下鉄札幌駅から徒歩5分  
お問合せ先/ TEL/FAX : 011-790-8610 (事務局)

すべて入場無料



<写真提供>運営委員・尾形氏

### ポーランド作品 ◆朗読 & 音楽 ♪

ポ文協(北海道ポーランド文化協会)の会員が札幌在住のポーランドの方々と交流することは総会のおき以外ありません。文化協会という言葉どおりに文化を通じて交流する機会はそれほど多くはなかったように思います。

どこかに集まってポーランドの詩の朗読会をしてみたい、ということで始まった「午後のポエジア」ですが、話しているうちに、詩だけでなく、一般文学もよし、音楽もよし、と幅が広がってきました。

10年ほど前、江別の小さな劇場で、パフォーマンスの間にポーランドの詩の朗読で参加した後援事業を除くと、朗読会は今年で2回目ですが、プログラムは下の欄の写真のとおり、変化に富んだ内容になりました。

“非日常の世界”で楽しもう、というのが霜田さんの提案です。



マイク・照明・机・そして背景に力強い「書」を配置。「ハレ」の舞台が観客を待つ。

会場は、北大クラーク会館3Fの国際文化交流活動室。舞台は霜田さん揮毫の大きな書を背景にし、会場の座席の周りには写真、ポスター、絵などのキッシュを並べ、やや暗いが、ユーモアとペースを感じさせる雰囲気になりました。

当日は1時半の開場でしたが、その前からお客様が集まり始め、会員以外や通りすがりにポスターを見たという人も加わり、40名弱が参加してくれました。

ポーランドの詩、映像と詩、歌とギター演奏、書簡集、自作の詩、新作能など工夫を凝らし、それぞれに楽しく演じました。

ラファウさんの映像と詩は、シンプルな○や△の図形が次々と変化していくユーモラスなストーリー。

長屋のり子さんは自作の詩の朗読で、原爆と東日本大震災に共通する人間の悲しみと強さをうたい上げました。

霜田さんは、前駐日ポーランド大使ヤドヴィガ・ロドヴィッチ・チェホフスカさんが、東日本大震災

(◆朗読 ♪音楽 ■その他)



◆ 斎田 道子  
「ポーランドの子どものうた」



◆ ラファウ・ジェブカ  
「Na straganie」



♪ ダニエル・ガイエフスキ  
「Tolerancja」



◆ 小林 暁子  
「母と娘の手紙」



◆ マズル・ミハウ  
「Stepy Akermanskie」



◆ 氏間多伊子  
「チェスワフ・ミウオシユ詩集」から



観客の前に立ち、挨拶する出演者たち



霜田副会長の書「午後のPoezja」



懇親会風景



♪ ヨアンナ・クツェヴィッチ



■ 富山 信夫 (とっておきの録音)

でなくなった方々の慰霊の気持ちをこめて、ホロコーストと重ねて作った新作能「鎮魂」を、福原光篠さんの横笛を合わせて、所作をつけて朗読。鏡板には陸前高田市の「奇跡の一本松」の写真をプロジェクターで映して使いました。

この記事の写真を写してくださった運営委員の尾形さんは、「霜田さんと福原光篠さんの篠笛という試みは、幽玄にして、作品をより引き立てていたように思います。ぜひ多くの人々に見ていただきたいものだと感じました」と感想を述べてくださいました。

終了後、ポーランド人の奥様方手作りの本格的なケーキが、コーヒー、紅茶などの飲み物とともに

参加者全員に振舞われ、楽しく歓談。ケーキは7～8種類もあり、腕前の見事さにみんな大喜びでした。

解散後、同じ会場で出演者、ポーランド人と家族、会員による打ち上げの懇親会も開かれ、ヨアンナさんの歌とギター演奏、富山さんの「とっておきの録音の話」などがあり、さらに内容豊かな交流会となりました。

「午後のポエジア」は会員参加型の例会です。出演することによって日ごろ忘れていた何かを思い出させ、自分を少しだけ開放することが出来るように思います。

来年はあなたも出演してみませんか。

(こばやし・あきこ＝監事)



◆ 長屋 のり子 「自作詩」から



◆ ウカシュ・ザブウォニスキ 「Lokomotywa」他



綴帳やポスターを展示



◆ オレヤージュ・シルヴィア 「Wczesna godzina」他



福島・陸前高田の「奇跡の一本松」



◆ 霜田千代麿 新作能「鎮魂」の台本朗読 (横笛演奏) 福原 光篠